

## 第6回 明石市財政及び公共施設のあり方に関する検討会（議事要旨）

日時	2025年(令和7年)2月1日(土) 11:00~12:30
場所	明石市役所本庁舎8階 806会議室
出席者	石原会長、石山委員、齊藤委員、岡平委員、河田委員、楠目委員、瀬能委員、森田委員、小田委員、増田委員
議事	【報告事項】 (1) タウンミーティング、市ホームページでの意見募集及びパブリックコメントの意見概要 【審議事項】 (2) 財政白書(案)
配布資料	・次第 ・タウンミーティング、市ホームページでの意見募集及びパブリックコメントの意見概要 <a href="#">資料1</a> ・(仮称)みんなで作る財政白書 本編(案) <a href="#">資料2</a> ・(仮称)みんなで作る財政白書 資料編(案) <a href="#">資料3</a>
事務局	総務局財務室財務担当

### 1 開会

### 2 市長挨拶

- ・ 6回にわたる検討会やタウンミーティングにご協力をいただき、心から御礼申し上げます。
- ・ これまでの検討を経て、多くの市民の意見を反映し、学生にも分かりやすく仕上がりがつあると実感している。この財政白書を通じて、市民の皆さんに財政状況だけでなく、様々なことに関心を持っていただき、一緒にまちづくりを進めていくきっかけになればと思っている。
- ・ 令和7年度は対話と共創の第2ステージをテーマに掲げており、来年度の公共施設配置適正化計画の改定においても、引き続き力をお借りしたい。

### 3 検討会委員による審議

- ・ タウンミーティング、市ホームページでの意見募集及びパブリックコメントの意見概要  
※事務局から資料説明([資料1](#))
- ・ 財政白書(案)  
※事務局から資料説明([資料2](#)・[資料3](#))

#### (会長)

- ・ 資料3に追加した企業会計についてだが、埼玉県八潮市の事故が注目を浴びており、特に水道・下水道に対する市民の皆さんの危機感が高まっている。
- ・ 記載内容のバランスを考慮して、水道・下水道だけを詳細に説明する必要はないが、八

潮市のケースを受けて、明石市としても対応を進めていくというニュアンスが伝わるような記載をしてもよいのではないか。

(A委員)

- ・ 今回、資料3に新たに企業会計のページが追加されているが、それによって、水道・下水道部局がそれぞれ作成している資料への誘導にもなるので、内容を充実したことは良いと思う。

(B委員)

- ・ これまでの検討により、財政白書の質はかなり高くなったと思う。あとは、市民の皆さんにどう周知していくのかについても検討が必要である。

(事務局)

- ・ 企業版ふるさと納税による寄附金を活用して、資料2については専門業者にデザイン委託を行い、より誰もが読みやすい形にしていくとともに、冊子形式にもしたいと考えている。
- ・ あわせて、広報紙の活用や市長のYoutubeチャンネルなどのSNS、出前講座も活用していきたい。
- ・ まずは市民の皆さんに財政白書の存在を知ってもらい、そして内容を知ってもらいことを目指している。

(市長)

- ・ 財政情報は市民のものであると考えているので、財政白書を活用して多くの市民に市の財政について知っていただきたい。
- ・ 毎月実施しているタウンミーティングで、財政白書を活用することも検討している。
- ・ 財政白書は、市民の皆さんと一緒にまちづくりを考えていく材料になると考えている。

(会長)

- ・ 近年では市民エンパワーメントという概念があり、これは市民と行政と一緒に決定していくというのだが、注意すべきこととして「情報の非対称性」がある。
- ・ 行政はよく知っているが市民は全然知らないという場合、いくら対話をしても良い結論が出ない。「情報の非対称性」を防ぐため、この財政白書を通じて、積極的に市民へ情報公開・情報提供を行ってほしい。
- ・ Youtubeなどインターネットを通じた発信はもちろん重要だが、それらを使いこなせない市民も一定数おられるので、例えば駅やバス乗り場に、印刷した財政白書を設置するのも1つの方法である。

(C委員)

- ・ 市民の方が手に取って見るには情報量がまだ多い。読んでもらうためには、広報紙などでトピックスだけを取り出し、財政白書へ誘導するという必要なのではないか。
- ・ 八潮市の事故を受けて、P24の公共施設の老朽化のところに、下水道などのインフラについてもメンテナンスしていくというメッセージを追加してもよいかもしれない。

- ・ 資料3のP278にも、対象に水道・下水道分が入っているのであれば明記してはどうか。
- ・ ただし、水道・下水道はどちらも経営戦略ビジョンを策定していると思われるので、そちらへ誘導するような表記にしてもよい。

(事務局)

- ・ 市民の関心が高くなっている部分でもあるので、担当部局とも相談のうえ、文言を追加したい。

(D委員)

- ・ 財政白書はようやくスタートに立った状態であり、今後どう使っていくのかが重要である。
- ・ いくら情報を出しても、理解できなければ出していないのと同じなので、財政白書を一方通行の情報提供にせず、対話を生み出す材料にしてほしい。

(会長)

- ・ 先ほどの市民エンパワーメントには、「啓発」「賦活」「関与」「参画」という4段階がある。段階が上がるほど市民参画の度合いも大きくなってくるが、最初から「関与」や「参画」は難しい。財政白書の3分の1はマンガなので、まずここをクローズアップして「啓発」に努めてはどうか。
- ・ 市民の皆さんに関心を持ってもらい、財政白書を有効に活用するために、みんなで力を合わせていくことが大事である。

(E委員)

- ・ 啓発の方法について、小学生や中学生を対象に配布するのはどうか。自身の経験上、マンガが盛り込まれた資料は繰り返し読むことが多い。その中で子どもから親や友だちにも広まっていくのではないか。
- ・ 資料2の表紙下部にある「明石市」という文字が海の色と同じなので、見えやすくした方がよい。

(F委員)

- ・ 下水道については、強靱化や延命化が課題になっており、市民の関心が高い。
- ・ 下水道が企業会計であることを知らない市民が多いと思うので、P11にある会計ごとの区分を少し目立たせるようにしたい。資料3に企業会計のページが追加されたので、資料間のリンクや、資料3のQRコードを資料2に持ってくると市民の方もアクセスしやすいと思う。

(G委員)

- ・ 資料3のP282以降は文字が多いので、量を少なくし、文章も短くした方が読みやすいのではないか。

(事務局)

- ・ 財政白書は毎年更新していくので、今回のご意見で修正できるところは対応するが、毎

年新たなトピックスも出てくると思うので、引き続き検討してより見やすいものにしていき  
たい。

(会長)

- ・ 資料3の分量については、ChatGPTのような生成AIを活用することでコンパクトにまとめることが可能だと思われる。
- ・ また、財政白書のみならず、業務改善の一環として定性分析ツールを活用することが今後求められてくる。これらツールの活用により、情報の客観性が増すことから、対外的な説明もしやすくなる。

(H委員)

- ・ 資料2はきれいで読みやすくまとまり、資料3も情報量が多いが丁寧に書かれていて濃い内容になっている。関心が低い方は資料2を、関心が高い方は資料3で幅広く対応できるようにしていると思う。
- ・ 資料2の表紙やマンガにはタコやシゴセンジャーなどのキャラクターが描かれている。このような遊び心があると、小さい子どもや親子の会話のきっかけにもなると思う。
- ・ できるだけ多くの方が財政についての情報を共有できるよう、しっかりと広報することで、財政白書は市民にとってより身近なものになっていくのではないかな。
- ・ 市民生活を豊かにするには、このようなお金のことなしでは考えられないことがよく分かった。

(C委員)

- ・ 小学生、中学生は1人1台タブレットを持っているので、印刷費用をかけなくても全員に見てもらえることができる。
- ・ キャラクターは最初から内容を理解するよりも、読もうとするきっかけになったらよい。

(会長)

- ・ 親しみのあるキャラクターをきっかけとして、子どもたちに早い段階から啓発することは重要なことである。

(A委員)

- ・ 市長や市議会議員も、意見や提案を行う際に財政白書を引用してくれると、その関連するページだけでも市民は開いたりする。
- ・ 財政は政治と同じで何となく触れがたい世界という印象が周囲にもあるが、正しい知識をもとに自分の意見を持つことは悪いことではないはずである。財政について話すことをためらうことがないよう、お力添えをいただければ、みんなは安心していろいろな議論ができると思う。

(会長)

- ・ 多様性の時代に、各自でいろいろな意見を持つことは何も間違ったことではない。
- ・ 一方で、多様性の半分はそれだとして、残り半分は多様な意見を受け止めるということ。意見を述べても相手の意見を受け入れない方も多い。

(市長)

- ・ そのような風潮を私も感じており、だからこそ対話の場を大事にしている。
- ・ 話すだけでなく聞くことで対話は成り立つ。その対話を本当に対等の関係で話すために大事なことは同じ情報を持つことだと考えている。行政と市民の差は情報量の差であり、その差を埋めるのがこの財政白書であると思っている。

(会長)

- ・ ある程度意見が出たようなので、何点か確認する。
- ・ 本日の資料は、検討会や市民の皆さんからご意見をいただいた最終案に近いものとなっているので、今後大きな修正はないことを前提に、本日の意見については事務局で最大限反映させていただこうと思う。
- ・ どの市の財政白書か分かるようにタイトルに「あかし」という言葉が追加されている。
- ・ 資料2については、専門業者へ委託により、今後デザインが修正されることになる。

(B委員)

- ・ 資料2の文字サイズは多くが8ポイントだが、9～12ポイントが読みやすいと思っていたので、デザイン委託で修正し、より見やすくできると思う。
- ・ 資料3には21ポイントの文字があり、窮屈に感じるページがある。文字サイズを小さくして、余白をしっかりとった方が見やすい資料になる。
- ・ 文字だけのページは、見出しをもう1つ挟むことでより分かりやすくなる。

(D委員)

- ・ 1年間かけてようやくここまで仕上がった。これでみんなが財政に興味を持ち、それを足かけに他の分野にも関心を持って、さらに市民参画が進んでいくことを願う。

(C委員)

- ・ このような検討会やタウンミーティングを経て、財政白書を策定する自治体はほとんどないと思う。市として力を入れているという姿勢が感じられた。
- ・ この財政白書がぜひ活用されることを期待している。

(会長)

- ・ 以上で検討は終了とする。
- ・ 本日出た意見の反映については、私と事務局に一任とさせていただく。
- ・ 最終案については、検討会での検討結果として、市長へ報告をさせていただく。

－市長挨拶－

－佐野副市長挨拶－

4 その他(事務連絡)

5 閉会